# 磐城新聞

(廿一日夕刊)

休刊　大祭第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢
廣告料　雜報欄行五十錢（場所指定二十錢増）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番


## 賣り言葉に買へ言葉

### 民政黨の血迷ひ振り

◎民政黨の政綱に現はれた所謂「議會中心政治」の思想は、敢て今日に始まつたものでないに拘はらず、今日始めて鈴木内相の爲に皇室中心主義と對比されるに至つた理由は何である乎。曰く、選擧の爲めだ。選擧第一主義の爲めだ。即ち最後の五分間を最も有効に利用せんとての努力の一効果に過ぎないのだ。

◎蛇の道は蛇といふ乎。傷持つ脛といふ乎。己を以て人を度るといふ乎　特に民政黨の「議會中心政治」の袴の立てをした内相の賣り言葉を買取つて、選擧に負けても居据る魂膽であらうと觀た民政黨幹部は、餘りに僻目である。所謂議會中心の思想が第二義にせよ、第一議にせよ、議會の多數を離れて政權を維持する不可能は今日に於ける政治の實際である。此の政治の實際を知りつゝ、進むに民政黨へ皇室中心主義から抽象的に言葉を買つたのは要するに鈴木内相の策略である。然り策略としては一寸面白い。

◎なるほど、本の政治は皇室中心であり、皇室中心であるべきわけだ。此の皇室中心に對抗の意味に於て議會中心を主張するのであつたならば、民政黨の意見は抽象的に一個の問題なるのである。然も抽象的の外に、尚ほ實際的の一面がある。如何に議會中心を高唱しても、帝國憲法の範圍に於ける所謂議會中心であつたならば、必ずしも皇室中心と衝突するものと觀るべきでない。所謂賣言葉と買言葉の立合は此に在るのだ

◎鈴木内相と民政黨幹部との言葉の賣買は此の如く觀るときに殆ど問題でない。問題は此の言葉の賣買の間に、不用意に現はれた當局者双方の思想の疎隔……

◎彼等は等しく、國民の總意を語つて居る。國民の總意が投票箱に整理されて議會に現はれるものだと語つて居る。此の思想は實に歐洲十八世紀末の思想である。

◎實際に於て、國民の總意なるものは投票箱に入るものでない。現に我輩の選擧區には我輩の意思を代表するに足る候補者は一人も居ない。此の場合に於て若し已むを得ず棄權をすれば然して其の棄權した事實を公言すれば清き一票を放棄した非國民として、普選の迷信家からお叱りを蒙るであらう。而して内務省の宣傳ビラの標準に照せば好むで世界を暗くした責任を負はねばならなくなるのだ。

◎選擧人の意志、即ち一票の意志は必ず屈折される。屈折されて屈折される。投票箱で屈批せられ、黨派で屈折せられ、議會で屈折せられ、最後に實行的に屈折される。――普選の迷信及び國民總意の迷信の存する限り政治の眞の改革は容易でない。

※明日の吉凶※　舊暦二月二日　新暦二月廿二日

▲一白　人の世話事は斷り得らるゝ丈斷るがよし▲二黒　多少の骨折はありとも自然の增收あるべし▲三碧　實力を顧みず過大なる擧に手を出せば失敗▲四綠　獨斷にて事を處する時は失敗目上に謀るべし▲五黄　物事急には運ばざれども末遂ぐる和の日▲六白　投機業を除きての外は何事も進んでよき日▲七赤　守より進むを先にすべき日旅行は凶▲八白　內輪に諍なき樣和合を主とすれば吉と成る▲九紫　幸運……心圓滿なれば尤も早かるべし

## 講談　闇に閃く男達

(20)　高田涙川作　尾崎雪鷹畫

小僧腕前に驚く

中盆の友造も現在自分がさいの目を變へたは惡いと知つて居るが、今この小僧に金を浚はれては賭場がくずれてしまふから、惡い事とは知りつゝやるにはやつたが、こうなつてはあとへ

引く譯にはゆかぬ

「野郎生意氣なことをいやアがる、君いやつら、その小僧をやつてしまへッ」

金を取られて、ムカ〳〵してゐた連中はヨシ來たとばかり

「小僧覺悟をしやアがれッ」

十四五人が前後左右より拳を固めて打つてかゝつてくる。

「ドッどうするつもりだ」

「どうもこうもねへ、現在二六の丁と出てゐるやつを半といつて金を引かれちやア稼業ができねへ、そのまゝ素直に返せばよし、四の五の云ふやア仕方がねへ、手前エ命はもらつてもその金を返さにやアならねへのだ、サア性根をすゑて返答しろいッ……」

「フム……東海道の鈴ヶ森ぢやアそんな事をいつても立つか知らないが肝心の己は承知ができねへ、見事とり返せるならとつて見ろ」

「さうぬかしやア仕方がねへ、ソレ皆のやつら」

十四五名の者が前後左右より打つてくる、金五郎はあなたにくゞりこなたに隱れ、相手にとつて不足のやつとしばしの間は右に左によけてゐたが、いつまでこうしてゐても果しがないと思ひ、今しも先に立つてゐる友造の利腕に手がかゝると思ふと、ヤ聲諸ともに五六間先へ投げつけた。

「ソレ投げやアがつた。高の知れた小僧と思つたら大變だ、相手は腕に覺えがある様子だ、氣をつけろ……」

子分のやつらはワイ〳〵騒ぐが今の手並におそれて近寄るものばなかつた

「サア、大勢の者ら、どうしたのだ金が欲しくばかゝつてこい」

子供にこういわれ癪にさわるが誰も出る者はない、先刻より此の様子をヂッと見てゐた兄い分の一人がワイ〳〵云つてゐる清吉の横つらを一つ打つた

「ア、痛へッ……」

清吉はビックリする。

「ヤイ己が先刻から見ていりやアいゝ氣になりやアがつて、態を見ろいッ、客人を見損なつていやアがるんだらう、己達を向ふに廻して金の取りやり勝負でもしやうといふ位だから、いづれたゞの客人ぢやあるめへ手前エらの銀紙目ぢや分るめへ」

「そんなら何も己を殴らねへでもいゝぢやねへか」

「愚圖々々ぬかすな」

清吉をたしなめる

「客人、しばらく待つてたくんなさい、實はこつちとらは木更津藤兵衛の子分でござんすが、私ちアこんなけちな野郎ながら代貸元をしますお多福の新吉と申しやす、先刻からの様子はみんな知つてをりました、友造のやつを叱りとばさうとは思つてゐましたが、お前エさんの口が餘りに大膽なので、どれほど出來るかと見てゐました、イヤモウ思つたより凄い腕、十六や十七の子供の手の中とは思はれねへ、子分のやつが他人をめくらにする様な惡い事をそばでだまつて見てゐたと思やア定めし腹も立ちませうが、こんな道にはすれた稼業なしてゐても、他人から親分とか兄いとかいはれねへのが私ちらのとりえ、それに今夜の仕末、マア下にゐてたくんなさい、とてもこんな事ぢアお前さんの腹に入るめへ、幸ひ今夜は親分藤兵衛も宅にをりますから、今夜の一さいを親分に話して十分にお詫いたしませう。と角も藤兵衛の宅までお出で下さい」

この新吉と同道する事となつた。大森の驛へ住居する木更津藤兵衛は當時此の界隈で第一の俠客親分といはれて居たものである

お多福の新吉は言葉をかけ

「親分只今歸りました客人を連れ申した」

親分藤兵衛の聲である

「オ、新吉御苦勢であつたナニ客人だとサアはいつてもらへねへ」

金五郎は新吉と共に奥の一間に通る

「新吉どうしたのだこの客人は………」

藤兵衛は不審らしく尋ねたのである


吉田眼科醫院

夜間診療
胃腸　内科　十二指腸虫病　專門　内科部
梅毒　淋病　婦人病　皮膚病　專門　外科部
平南町　松村病院　電話七〇一

鐵筋コンクリート
鐵骨組立
和洋建築
文化式建築
設計監督
土木、建築、請負業
合資會社　丸三森川組
社長　大森鎮平
東京日本橋南茅場町二〇
電話茅場町66四五二番

入院隨時（自炊の便あり）
耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平町南町（電一七〇番）

營業品目
絹糸、絹紡績
綿糸、染糸、組紐
漁網糸、人造絹糸
カタン糸、輸出用加工糸
眞綿、其他糸物一式
東京市日本橋區通油町
株式會社　藤掛商店
糸界の羅針盤糸紐通報御一報次第直送
電話浪花三五一番
振替東京三三四〇番
小店員募集
十五才以上十七八才迄　五名
小學校卒業程度御希望の方磐城新聞社御出で下さい。委細面談

片濱自動車運轉
平、高久、豊間、江名
停留所
一丁目小川屋、四丁目泉屋
新川町松崎硝子店、月見町白土屋
月見町一二三屋、江名山口屋
電話…二一七番
電話…一四二番
（御三人以上はお迎ひに參上致します）
平町四丁目和泉屋旅館前
鈴木　片濱自動車商會

診察無料
如何なる重患でも直ちに癒る三丁目の大谷へ御出下さい
院長博士　敬白
大谷時計病院
電話一九番

貸地廣告
平町郡役所より税務署附近の新開地に一千餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり葉書なりで御一報下されば社員がお伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話六〇三番
五四一番

釀造元
清世界
銘酒
各炭鑛御用達
石城小名濱町
清水屋
小野晉平
電話六番

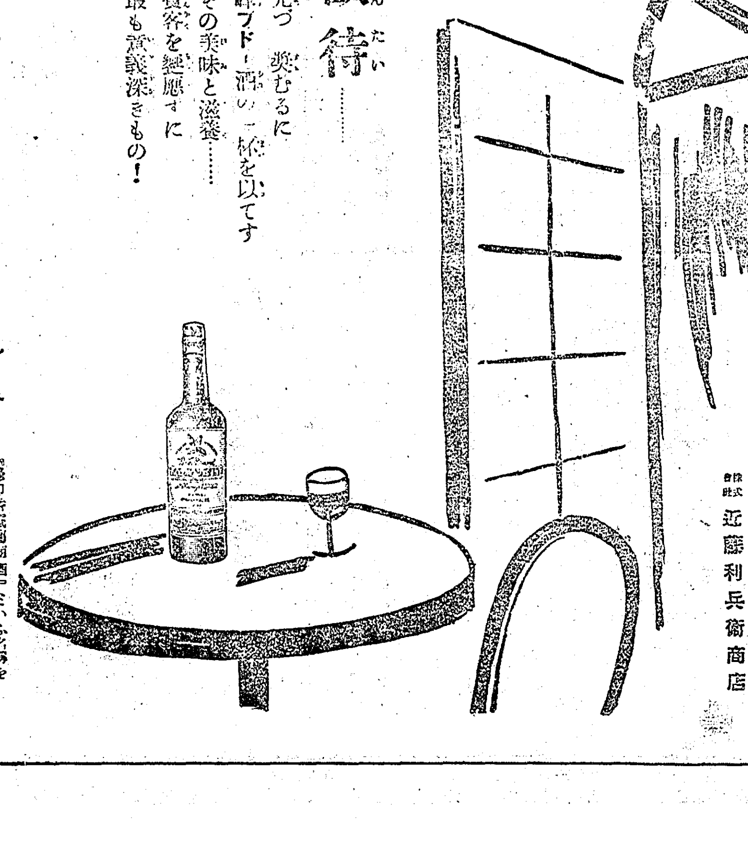
生花教授
池ノ坊流
生花を懇切叮寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい
平町五丁目（釜屋横町）
須藤まつの

營業種目
內地材
材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達
請負　其他
佐藤材木店
常磐線平町　新川町
電話三三五番

入院隨意（自炊の便あり）
X光線科
外科專門
平南町
上田外科醫院
電話一二九

蜂ブドー酒

歡待……
先づ奬むるに
蜂ブドー酒の一杯を以てす
その美味と滋養……
賓客を娛應すに
最も意義深きもの！



『蜂印香竄葡萄酒』といふ名稱を貴樣のお奬めに依り　且は時勢の推移に鑑み　今後『蜂ブドー酒』と改めます　なほ市場にある從來のものは其儘として　御安心の上引續き御愛飲を願ひます

合資會社　近藤利兵衛商店

# 稍々疑ひなき 木村氏の最高點
## 次は比佐松本氏
### けふ開票の情勢

各候補の運命を秘めて議し投票箱は昨二十日選擧終了後夫れ〳〵平、植田、小川の各開票場に運ばれ今二十一日午前八時より開票を開始した、之れより先き各開票場には犇々と詰め寄せる安否を氣遣ふ人々でひしめき合ひ警戒の警察官が群衆を制しつゝ時は刻々に過ぎて行く、木村、比佐二候補の選擧本部は**朝まだき**から萬勝を祈る人々が元氣な振れ込みで情報を待つ午前十時植田兩票區より到着した植田町の結果が昨年秋の縣議戰當時の投票分野に比較して政友派の勝利が木村本部に來るやワッと揚る萬歲の聲に景氣を添へ順次到着する情勢に政民兩派共一喜一憂の胸をざわめかしてゐるが双葉、相馬二郡も目下開票中にあり本稿締切りまでの各候補の情勢を

**綜合すると**第三區に於ける得票は木村、比佐、松本、氏家の順序を往來し政友派は二名を獲得し民政公認氏家淸氏至つて振はず落選を傳へられてゐる、平町開票場に於ける開票は明二十二日午前四時乃至六時に及ぶ豫定で双、相二郡よりの開票を取りまとめ明二十二日午後一時より元郡會議室に開く選擧會は午後三時頃全く終了の筈であるが政友派木村、松本、民政比佐の當選は動かす可らざるらしく中立佐川候補は

**運動資金**の窮乏と民政黨よりの惡宣傳により十八日來形勢全く哀ひ當初七八千票を傳へられたが各町村共豫想外の得票減となり此の分では保證金の沒收を[illegible]や否やの危險區域にあり然かも飽くまで普選の精神を體し飽くまで言論戰に始終し腹背に敵を受け此の難[illegible]に處して完[illegible]戰ひ拔いた佐川派の努力と熱意に對しては郡民から非常な敬服と同情を惹いてゐる

# 衆議院議員選擧投票各町村別分野一覽表

備考 △有權者數は選擧當日現在の實數 △二月廿一日午後五時迄開票の分

| 町村名 | 有權者數 | 總投票數 | 棄權 | 無效 | 有效投票 | 木村 | 比佐 | 松本 | 氏家 | 佐川 | 山田 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平 | 四、〇六一 | 三、七一一 | 三五〇 | | | | | | | | |
| 飯野 | 六一七 | 五七五 | 五二 | | | 三三九 | 二〇二 | 一九 | 五 | 六 | 一 |
| 鹿島 | 三六四 | 三二二 | 四二 | | | 一四二 | 一六〇 | 五 | 四 | 七 | 〇 |
| 江名 | 一、〇一二 | 八八八 | 一二四 | | | 五一六 | 二九六 | 四 | 三〇 | 五 | 〇 |
| 豐間 | 六八五 | 五三四 | 一五一 | | | | | | | | |
| 高久 | 四九二 | 四五二 | 四〇 | | | 二一五 | 一七一 | 二一 | 六 | 三九 | 〇 |
| 夏井 | 五〇四 | 四五〇 | 五四 | | | 二一二 | 二二六 | 〇 | 〇 | 四 | 一 |
| 神谷 | 六七一 | 六一二 | 六一 | | | 二九七 | 一九九 | 七五 | 二六 | 一〇 | 一 |
| 草野 | 八四八 | 七八〇 | 六八 | | | 五三七 | 一七六 | 七〇 | 四 | 〇 | 〇 |
| 大浦 | 八八五 | 八二三 | 六二 | | | | | | | | |
| 四倉 | 一、三九二 | 一、二四七 | 一三五 | | | | | | | | |
| 大野 | 七九五 | 七二〇 | 七五 | | | 四三五 | 二三五 | 三 | 二 | 三 | 〇 |
| 平窪 | 六二五 | 五六二 | 六三 | | | 三〇五 | 二〇五 | 二三 | 八 | 九 | 〇 |
| 赤井 | 一、三七五 | 一、二二一 | 一五四 | | | 四二三 | 七二八 | 二五 | 一〇 | 二五 | 一 |
| 小川 | 八二〇 | 七四五 | 七五 | | | 四四二 | 二七〇 | 五 | 九 | 一八 | 一 |
| 川前 | 五九一 | 四七六 | 一一五 | | | 一四〇 | 二九〇 | 一〇二 | 一九 | 一六 | 〇 |
| 三阪 | 七六五 | 六〇八 | 一五七 | | | 二〇八 | 三六〇 | 一 | 一三 | 一五 | 一 |
| 永戸 | 七四五 | 六一五 | 一三〇 | | | | | | | | |
| 好間 | 二、二〇〇 | 一、九〇六 | 二九四 | | | 五一五 | 九〇五 | 八〇 | 五三 | 三一 | 一四 |
| 內郷 | 四、四二〇 | 三、七九五 | 六二五 | | | | | | | | |
| 湯本 | 二、〇七四 | 一、九一八 | 一五六 | | | | | | | | |
| 磐崎 | 一、七二三 | 一、四六〇 | 二六三 | | | | | | | | |
| 上遠野 | 九一五 | 七九八 | 一一七 | | | 三七八 | 三八四 | 一二 | 四 | 一三 | 五 |
| 入遠野 | 八五二 | 七二四 | 一二八 | | | 二二八 | 四五七 | 一二 | 二 | 三八 | 〇 |
| 田人 | 九八七 | 七六一 | 二六六 | | | 二四七 | 四二五 | 二一 | 一〇 | 一二 | 〇 |
| 川部 | 八三〇 | 六九一 | 一三九 | | | 三三一 | 三〇七 | 四四 | 四 | 一〇 | 〇 |
| 勿來 | 一、四四〇 | 一、二四一 | 一九九 | | | 四五一 | 五八五 | 一四五 | 八 | 三三 | 〇 |
| 錦 | 六七四 | 六二六 | 四八 | | | 三四九 | 二四二 | 五 | 〇 | 一二 | 一 |
| 山田 | 六一七 | 五六三 | 五四 | | | 三七五 | 一六六 | 一〇 | 〇 | 一七 | 〇 |
| 植田 | 一、〇三三 | 九六六 | 六七 | | | 四九一 | 四五七 | 一五 | 四 | 五 | 〇 |
| 渡邊 | 三九九 | 三五七 | 四二 | | | 一八四 | 一五四 | 一四 | 二一 | 二 | 〇 |
| 泉 | 七五八 | 六八九 | 六九 | | | 三三三 | 三二四 | 四 | 二〇 | 一〇 | 三 |
| 玉川 | 四五一 | 四〇三 | 四八 | | | 一三〇 | 二二二 | 二三 | 〇 | 一 | 二 |
| 小名濱 | 一、四四二 | 一、二五五 | 一八七 | | | | | | | | |
| 石城郡計 | 三、八五六 | 三三、四八八 | 四、五六八 | | | | | | | | |
| 双葉郡計 | | | | | | | | | | | |
| 相馬郡計 | | | | | | | | | | | |
| 總合計 | | | | | | | | | | | |

# 完全に投票された 三萬三千五百票
## 棄權は一割一分八厘
### 石城の選擧勘定

第三區に於ける普選第一回の總選擧は昨廿日午後七時を以つて終了され直ちに各町村の投票函は所屬開票所に搬入され今廿一日午前八時から平、植田、小川の三開票區共同時に開票を開始してゐるが本郡の名簿作成當時に於ける總有權者數は三萬八千五百十五人で其の後死亡其の他の失格者四百五十九人を減んじた三萬八千五十六人が當日現在の**有權者總數**である投票〆切後の精算の結果棄權數は四千五百六十八票即ち總數の一割一分八厘の棄權率であるが此れを昨秋の縣會に比較して約三分弱の棄權數を減んじてゐるのを見れば[illegible]迎方が政治的に自覺しつゝあるかを語ふ事が充分に首けるそうして殘り三萬三千四百八十八票本郡からは勿論第三區から立候補した木村、松本、佐川、山田、比佐、氏家の**六候補者**の運命を定める骰子となる譯であるが此の淸き一票の集り三萬三千四百八十八票の中には見えない眼を瞬たきながらも自己の信んずる人にと本眞に淸淨そのものゝ一票を投じた按摩さんが二十八人あり普選で新しく許された不在投票の便を利用した人が四百三人もあつた

## 石住村の火事

石城郡石住村平子淸之助方から十九日午前十時ころ發火隣家なる平子恭一郎方三戶を燒失午後二時鎭火した原因は淸之助長男平男の弄火で損害取調べ中

# 販賣利用の 繭市場資金
## 拂込手間どる

石城郡販賣利用組合の繭市場業績は例年頗る良好を示し益々利用者激增の趨勢をたどりつゝあれど現在の出資額約三萬圓にては資金不足にて充分なる擴張を爲す能はざる狀態にあるので本年春蠶取引期迄に更に一萬圓の拂込をなさしめんと一口に對し五圓宛の拂込みを組合員に對し通告中で期日は三月十五日限りであるが依然として農村經濟回復の兆見えざる昨今なれば順調なる拂込完了を見る事が困難なるやも計られざれば逐年好成績を擧げて養蠶家の經濟の資を收めつゝある組合の資金なれば可及的に期日迄に拂込の完了を見る樣特に組合員の考慮を煩はしたいと組合理事は望んでゐる

# 締切り間近に及び 續々不在投票
## 合計二百四十名が
### 石城の漁船業者

石城郡に於ける漁船從業者の不在投票は江名町二百五十名、四倉二百、小名濱五十名合計五百名位を見込まれたるも去十日の告知早々では未だ餘日があるのが該投票に對する充分の理解がなかつたらしいので各役場共に殆ど沓然狀態であつたが愈よ最近に至り出漁の都合上當日の投票不可能の事實を見て五噸以上の漁船にして出航及び沖合並に歸港等の日時に關し業務主に關し業務主の證明書ヶ携へ投票管理者たる町村長に其事由の確定を認められ、投票期日の前日、すなはち十九日午後四時迄に該投票をなせるものは小名濱に於ける去十七日から三日間の卅三名外江名町の二百十六名及び四倉の九十一名都合二百四十名に上つた

# 平驛構內へ 自動車乘降
## 許可を願出づ

平、江名町間の片濱街道乘合自動車は鈴木野崎兩縣議の經營で現在四臺の車輛を以て絶え間なく往復し同方部の交通に非常の便宜を與ふるに至つたが同自動車には平驛構內の乘降を許されてないので地方部民の熱望により志賀豐間村長から東京鐵道局長宛去十九日右許可方の陳情書を差出した

# 臨時議會を待つ 小名濱港修築案
## 淺野氏との契約整ひ
### 着々實現の著に

小名濱商港修築費として淺野總一郎翁よりの寄附金百萬圓については既報の如く伊東知事より交渉の結果大體縣會の意見通り無償貸與期間を十五ヶ年に短縮することになつたので過般船越道路主事は契約書の正本を携へて上京、淺野翁及び保證人たる淺野同族株式會社と正式の調印を完了こゝに契約案は成立したゞ臨時縣會の提案とその可決を待つのみとなつた

# 平局選擧郵便 二十萬通
## 案外の閑散

今次の總選擧に於ける平郵便局の選擧郵便取扱數は十九日午後十二迄に辛うじて二十萬を突破したのみで昨秋の縣會戰に比し三分の二強位のもので當局も案外なる閑散に驚いた程であるが就其郵便物の七分通りは候補者の差出した無料郵便で其他の[illegible]が第三者が差出したものと見られてゐるので有料郵便に該當する推薦狀等の郵便物は第三者が緣故者を迫つて差出した僅なものに過ぎない有樣なので郵便料收入から行くと平局が腕によりをかけて待つてゐた程の事もなく全然縣議の際と反比例を示し期待を裏切られた譯である

# 投票場の 悲喜劇
## 自慢の大聲

平町地方は普選によつて得た新有權者が非常に多く平町は約三割ほどの新有權者を得たが始めて投票をなすもので失敗を演じたものも少くなかつたが平投票場で午前十時半ごろ一人の勞働者風の男が投票箱の前に立つて候補者の名前を忘れてしまひ一時間ぅろ〳〵してゐた結果とう〳〵白紙を投じて歸つた、なほ入口の所から「おれは政友會だ」などゝ自慢氣に怒鳴つたものなどもあり悲喜劇は隨所にあつた

# 東京電話 大阪と千葉
## 開票結果
### 政友派勝つ

（東京電話）本日開票の結果當選確定した他府縣の分左の如し

△千葉縣（第二區）
鵜澤總八（民）
吉植庄一郎（政）
今井竹彦（政）

△大阪府（第二區）
紫安新九郎（民）
武藤山治（實）

同（第三區）
西尻米四郎（社）

同（第四區）
鈴木文治（勞）
村田虎之助（革）

同（第六區）
南貞藏（中）
山口義一（政）


鼻のクスリ チクノール錠
痔の最高內服藥 ダイサン錠
平町五丁目角
山野邊藥局

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵 金物問屋 ㊄ 釜屋商店
諸橋久太郎
電話 九番 一三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は㊄の生命なり

平町郊外關ノ上
土木建築請負 強口唯七郎
電話 四〇一番
砂利、砂は御用命あり次第砂一升砂利一俵以上直ちに御屆けいたします

時計の進歩！遂に 振動不感の 腕用時計 を生めり
打付けてもたゝき付けても硝子も毀れず狂はない
側はクローム側にて小形です
TRADE MARK NIPPON OPHONE
平町四丁目
會田時計店
電話 三六三

登録商標
釀造元
福島縣平町
山崎合名會社
電話（營業部一〇番 釀造工場二七番）
振替東京一九七五五番
東京支店
上野車坂町四三
電話下谷五八三七
振替東京六八三二三番

平町田町
高久病院
電話 五一三番
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽淸
藥劑士 佐竹菊雄
內科小兒科、外科花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科